

# 中京テレビ放送

## 事業の名称

初経験！？インターネット『のない世界』・『だけの世界』  
～知ろう！変わる伝え方、伝わり方～

## 共同で事業を実施した団体

CTV MID ENJIN（中京テレビグループ／本事業の企画、運営、技術派遣）

## 事業概要

### <企画意図>

物心がついたときからネット環境が身近にある現代の子どもたち。「インターネットは便利けどウソの情報もたくさんあるから気を付けよう」と、ことあるごとに耳にしているはずだが、意外と分かっていないネットとリアルの違い。インターネットだけで情報を調べるケースと、インターネットを一切使わないケース、あえて両極端な状況で取材し、それぞれにどんなメリット・デメリットがあるのかを学ぶプログラム。

取材を通じて、「誰に」「どうやって」聞けばいいのか、正確な情報を引き出すためには「どう質問するか」「何を調べるか」などを学び、SNSやあやふやなネット記事に翻弄されない、正確な情報を見極める力につなげる。

### <プログラムの流れ（計120分）>

#### ① メディアリテラシー ～まずは“情報”について学ぼう～（25分）

- ・ 一次情報、二次情報、インターネットの情報を報道記者やアナウンサーが解説
- ・ VTR「ニュースができるまで」を上映

記者の取材密着、生放送前・生放送中の報道フロアの様子を、クイズを盛り込んだ動画を見ながら、ニュースができあがる過程を学ぶ。



#### ② ネット取材班とリアル取材班に分かれての取材体験（30分）

参加者を「インターネットのみで取材する班（ネット取材班）」と「実際に現場に行き取材する班（リアル取材班）」に分け、「テレビ局のスタジオ」をテーマにそれぞれ取材を行う。

- ・ ネット取材班

会場に用意したパソコンを使用して、インターネットで調べる。

- ・ リアル取材班

中京テレビのスタジオに行き、スタジオ関係者3名（スタジオ建設時担当者、カメラマン、大道具担当者）に直接取材する。



③ 原稿作成（25分）

取材を通じて得た情報から「一番伝えたいこと」を考え、チームで1つの原稿（約300字程度）を作成する。

※報道記者やアナウンサーが原稿の書き方をレクチャーし、サポートする。

④ 原稿発表と意見交換（25分）

完成した原稿をグループ代表者がキャスターとなり、カメラの前で発表する。テレビ局の撮影機材やセットを取り入れ、簡易スタジオを作ることで、臨場感やワクワク感を醸成し、記憶に残る体験とする。



発表後は、各グループの原稿を比較し、「ネット取材班」と「リアル取材班」での情報の違いやチームごとに入手した情報の違い、苦労した点などを話し合い、情報の性質や扱い方、情報の伝え方などを意識してもらう。

⑤ 振り返りと質問タイム、フォローアップのための局内見学（15分）

「ネット取材班」は実際にスタジオに行き、ネットのみで調べた情報と実際に見て得られる情報の違いを感じる。

一次情報、二次情報、インターネットの長所・短所を理解し、正しい情報かどうか

を見極める力を養うことの重要性、インターネット上での正しい情報の見極め方について、あらためて伝える。報道記者・アナウンサーに直接質問する時間を設け、さらなる理解を深める。

## **事業の成果**

### **【プログラム開催実績】**

①開催日：2024年9月10日

対象：愛知県江南市立布袋小学校5年生4クラス118名

場所：中京テレビ内ホール

時間：120分×2回（午前、午後1回ずつ）

②開催日：2024年10月9日

対象：名古屋大学教育学部附属中・高等学校25名

場所：中京テレビ内ホール

時間：120分×1回

### **【本プログラムを実施するにあたり学校からのリクエスト】**

- ・ 学校の研究授業として実施したい。
- ・ 社会科や課外学習の授業として、メディアリテラシーについて体験を通して児童や生徒に学ばせたい。
- ・ ネットに出ている情報について、すべての情報のレベルが同じだと思っているため、情報の見極め方について学ばせたい。

### **【参加した児童・生徒の感想】**

- ・ 情報の正確性を確かめる難しさと大切さがわかりました。
- ・ たくさんの人に話を聞いて興味が湧いた。原稿作成の難しさを知った。
- ・ ニュースを作るまでに、どのような工程があるのか、学校の授業ではわからないことをたくさん学ぶことができました。
- ・ 一次情報、二次情報のこともわかったのでもっとうれしかったし、ニュースについてわかることができ、ニュースが好きになりました。
- ・ メディアリテラシーという現代に大切なことを学び、さらにこの場でしかできない学びや体験ができて、あっという間の2時間でした。想像していたよりもずっと身近にテレビがあって感動しました。
- ・ 1つのニュースを作るために、たくさんの努力や時間がかけられているのを知って、ニュースにもっと興味が持てた。

### **【保護者が児童・生徒から聞いた感想】**

- ・ 直接的に体験などから得る一次情報とSNSなどから得る二次情報があることなど、学んできたことを話してくれました。
- ・ 二次情報は本当のことか分からないから、気をつけようと思ったようです。

- ・ 一次情報、二次情報と言う内容を教えていただいたようで、自分で2択クイズを考えて家族に問題を出していました。楽しく情報のことについて学べたことにうれしく思います。
- ・ 『キャッチ!』(夕方ワイド情報番組)を見ながら質問の内容や勉強したことをとても詳しく話してくれました。
- ・ 報道で一番大事なのは、より素早く確かな情報精査をすること。テロップは、視聴者に情報をよりわかりやすくするために、映像や音声だけでは伝わらないことを伝え、より情報を強調することができる。アナウンサーは、原稿が間違っていないか、日本語に違和感がないかを確認する必要がある、と聞きました。
- ・ 普段は動画を見ていることが多いのですが、テレビの「画面の向こう」で何が行われているのか、楽しんで学べたようです。
- ・ 親が知らない情報や学校では学ぶことができない社会を知ることができて、とても良い機会になったと思う。今後テレビを見る視点もちょっと変わると思った。
- ・ 親も知らない情報もあり、聞いていて勉強になりました。便利な世の中になり、インターネットですぐ情報を得られる時代ですが、実際に子どもが見て、聞いて感じたことはこの先の宝となるように思います。
- ・ 最近では、SNSでいろいろな情報を目にするが増えたけど、やはりテレビを見て言葉を理解してほしいと思います。

#### 【参加した学校の教師の感想】

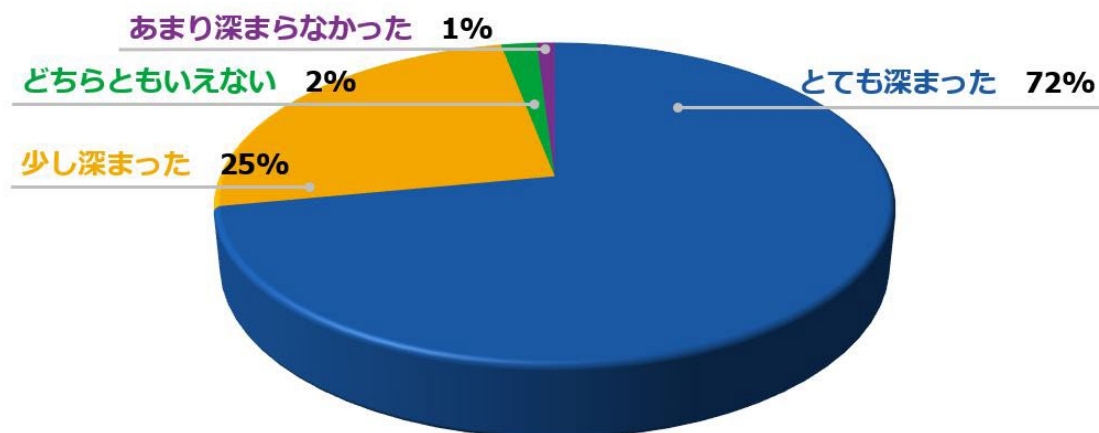
- ・ 実際にテレビ局に行き、スタジオを見たり、記者やアナウンサーの話を聞いたことは、学校での座学と違う“生きた学習”内容でした。また、実際にアナウンサーや記者、技術スタッフを含む生の話を聞いたことも良かった。
- ・ 事後学習の際、情報の扱い方や情報の収集方法を、学んだことを活かしながら実践していて、多くの成長を見ることができた。

#### 【ネット取材班とリアル取材班が得た情報の違い】

- ・ ネット取材班……「テレビ局のスタジオ」について、各局のウェブサイトに記載されている内容から広くて浅い情報は得ることができる。しかし、検索ワードによって出てくる情報が異なり、必要な情報をピンポイントで探し出すのが難しい様子だった。
- ・ リアル取材班……直接見たり聞いたりすることで、スタジオやセットのこだわり、照明や小道具などの細部までを知ることができる。さらに「スタジオが完成した時の気持ち」など感情についても質問していた。ネット取材班に比べると、取材対象者の感情を受け止めたり、情報を深く掘り下げることができていた。

【数値結果】

“情報”についての学びが深まりましたか？（回答数142）



【全体を振り返って】

テレビ局を実際に訪問して授業を受けるという実体験が児童・生徒のメディアリテラシーを深めることにつながった。また、「ニュースができるまで」の過程をVTR視聴のみにとどめず、記者やアナウンサーから生の声を聞いたり、スタジオやインターネットで自らが体を動かして取材することで、ニュースや情報を身近に感じてもらうことができた。

ネット取材班とリアル取材班の2グループに分けて授業を行うことで、対面で取材し情報を得るメリットも体験してもらうことができた。その反面、インターネット上で正しい情報や必要な情報が簡単に見つかるものではないことも学んでいた。

児童・生徒から「テレビをもっと見ようと思った」「ニュースが好きになった」「アナウンサーになりたくなった」「将来のビジョンの1つとして直接テレビ局の仕事に触れられたのはいい経験だった」などのコメントがあり、テレビ局に興味をもってくれたようだ。今後もメディアリテラシーの向上につながるプログラムを継続して展開していく。

以上